

【事務局長談話】

政府は自衛隊の国民監視活動を止めさせよ

2007年6月10日

日本科学者会議

事務局長 松川康夫

最近、自衛隊が国民の平和運動から消費税反対運動などに至る広範な運動、また政党・議員、映画監督、ジャーナリスト、漫画家などの広範な人々を監視し、情報を収集していたことが発覚した。驚くべきことに、政府はこの事実を認めただけでなく、これを正当な活動と強弁し、続行する意思を表明している。

国家の武力組織である自衛隊の国民監視活動は、マスコミが行なう取材活動などとは次元が異なるものであり、権力が思想・信条、言論・表現、結社の自由を侵害する違法行為である。

学問と科学・技術の健全で総合的な発展とその成果の国民福祉への貢献は、言論・表現の自由と固く結びついている。日本科学者会議は、学問と科学・技術に携わる者の団体として、自衛隊の国民監視活動とこれを是とする政府の見解を見過ごすことはできない。

自衛隊はこのような違法行為を直ちに止めるべきであり、政府は自衛隊のこのような違法行為を直ちに止めさせるべきである。

以上